

常陸大宮市第1号の青年  
海外協力隊員として活動  
中の石塚幹子さんからお  
便りが届きました

# コスタリカ から

# Hola!

オラ



コスタリカ共和国の言語はスペイン語。Holaは「こんにちは」の意味です。



▲研修会の参加者(後列左:石塚さん。中央で布を持っている2人:高倉先生ともう1人の講師)



▲朽ちた木、落ち葉、きのこなどから有用微生物を収集



▲コンポスト講習会の様子



▲できあがったコンポストに生ごみを入れました。コンポストの容器は段ボールを使用

常陸大宮市の皆さんこんにちは。コスタリカは、独立記念日(9月15日)のお祭りに向け、バンドという鼓笛隊の練習の音があちこちから聞こえてきます。(原稿作成時、8月中旬)

今回は、コスタリカで環境教育を行っている青年海外協力隊隊員2人と共に開催した「高倉式コンポスト在外研修」についてお話をします。

高倉式コンポスト技術は、高倉弘二先生が発案したもので、有用微生物を活性化・利用し、通常2カ月かかる有機ごみ(生ごみ)の分解を約1日までに縮める技術です。現地にあるもの(例えばもみ殻、トウモロコシ粉、きのこ、落ち葉、果物の皮など)を使うため、費用はほとんどかからず、維持管理も簡単です。普及によって、地域の生ごみ減少、衛生環境改善、分別意識の向上が進み、さらにはできあがったコンポストを家庭や学校菜園で使用できます。隊員が活動する途上国における適性技術であるといえます。そこで、高倉先生を講師として招き、7月下旬に4日間の研修を開催しました。

開催背景ですが、現在、廃棄物処理は多くの国で深刻な問題であり、コスタリカにおいても経済成長に伴う廃棄物量の増加と最終処分場の不足及び廃棄物の管理の在り方が問題視されています。廃棄物の大部分が生ごみであり、その割合は約60%を占めています。近年「リサイクル」という言葉が世界中

で知れわたり、広く取り込まれるようになったものの中南米諸国では依然として知識と対策が不足しています。以上の背景から、コンポスト作製の知識と技術、普及に至る過程と秘訣を学ぶことを目的としました。本研修には、中南米諸国の環境教育分野で活動する隊員及びコンポスト普及に励む現地職員、その他の関係者約85人が参加しました。そのため、国を超えた活発な意見交換、知識の共有にもつながりました。

私の活動地域からは、農牧省の同僚、小学校教諭、厚生省職員と隊員、計7人が参加しました。参加前は、彼らの意識は高くありませんでした。しかし、研修を受けることで、自分たちの地域環境を考え、コンポストの意義や普及する利点、今後の活動方針を具体的に描くことができたようです。私自身も、生ごみをコンポスト化することで、台所の生ごみの不愉快さ(におい、虫)をなくし、他のごみとの分別を容易にし、分別意識をもたらす、という点に感銘を受けました。

研修後、任地からの参加者は、コンポスト普及委員会を結成し、定期的に小学校の教員と保護者を対象とした講習会を行っています。各学校と地域にコンポストが根付くこと、きれいな地域になることを目標にして、普及に努めています。

普及委員会として今後、教育省や地元の企業、NGOの協力を仰ぎ、私が帰国した後も活動を継続してもらいたいと思っています。